

④ 中心市街地内の大規模小売店舗の立地状況

中心市街地に立地する店舗面積 10,000 m²以上の大規模小売店舗は存在しない。

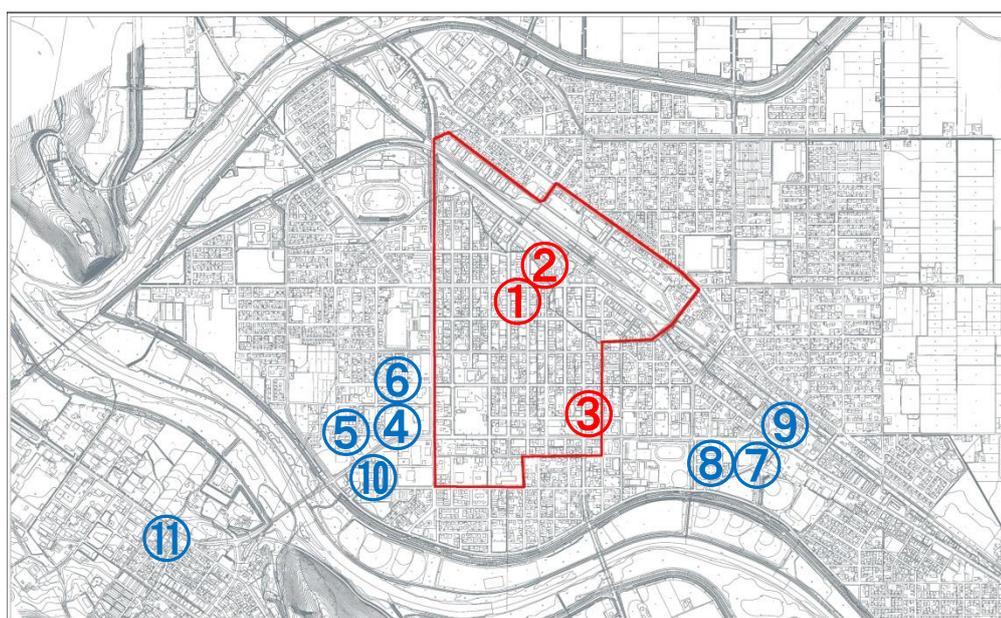
【中心市街地店舗状況】

所在地	大規模小売店舗の名称	開店年月	店舗面積	業 種
本 町	① 三番館	H 4・6	3, 078 m ²	百貨店
朝日町	② Aコープ朝日店	H 18・12	992 m ²	スーパー
幸 町	③ ラルズ	H 10・9	1, 220 m ²	スーパー

【郊外地各店舗状況】

所在地	大規模小売店舗の名称	開店年月	店舗面積	業 種
新富町	④ Aコープ・フォレスト店	H 3・12	1, 680 m ²	スーパー
新富町	⑤ ホーマック	H 14・11	3, 370 m ²	日用・雑貨量販店
新富町	⑥ 複合店 ベスト電器 ゲオ	H 9・7	1, 290 m ²	電器 書店・DVD・CDレンタル
若葉町	⑦ コープさっぽろ富良野店	H 1・5	3, 443 m ²	スーパー
若葉町	⑧ サッポロドラッグ	H 15・11	1, 157 m ²	薬剤・日用品
緑 町	⑨ 複合店 ツルハ マックハウス マツヤデンキ ダイゼン	H 8・11	1, 887 m ²	薬剤・日用品 衣料 電器 酒類
弥生町	⑩ 複合店 100円ショップ マルタカ	H 7・3	2, 539 m ²	日用・雑貨量販店 衣料
学田3区	⑪ しまむら	H 16・10	1, 133 m ²	衣料

立地状況図



1:10000

富良野市全体では 10,000 m² を超える大型店舗の立地はないが、隣接中富良野町行政区域においてホームセンターと生鮮を扱う複合店舗が平成 19 年に立地開業している。

【隣接町村地各店舗状況】

所在地	大規模小売店舗の名称	開店年月	店舗面積	備考
中富良野町	ベストム中富良野店	H 19・12	14,914 m ²	
	業 態	スーパー・日用・雑貨量販店・電器・書店・薬剤・日用品・衣料・酒類		

位置図（富良野市中心市街地との距離関係 約 L=11km 自動車移動時間 約 15 分）



※Google マップより



富良野市内で 10,000 m² を超える大型店や郊外型大型小売店舗は存在していないが、道路網整備などによるモーターゼーションの進展や、近郊中核都市の郊外型大型小売店舗の進出は富良野市地域へ少なからず影響を与えている。

※「平成21年北海道広域商圈動向調査報告書（平成22年2月）より」

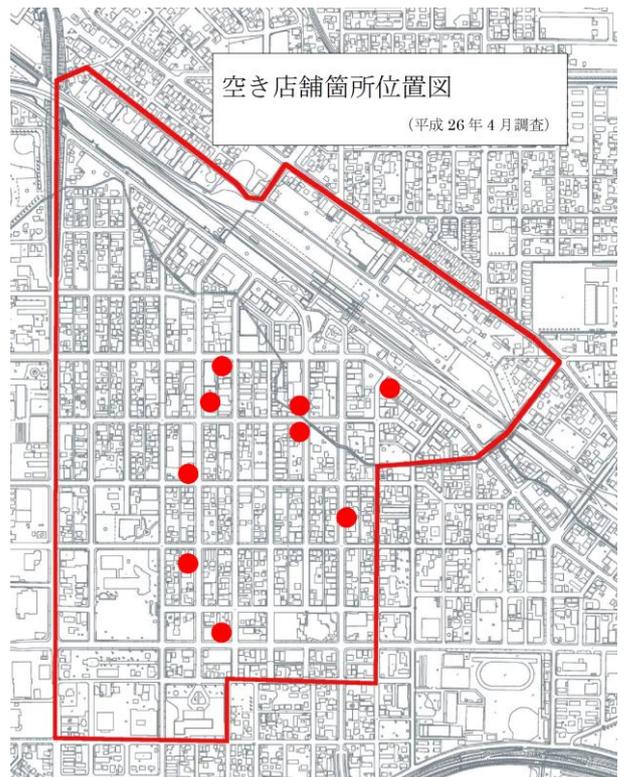
富良野市

商品別買物場所の利用割合																			
一平成21年一 区域内人口 24,493 人 (単位:%)																			
(%)	生鮮食料品	一般食料品	日用雑貨	医薬品・化粧品	実用衣料	高級衣料	呉服・寝具	服飾品・アクセサリー	靴・カバン	カメラ	時計・メガネ	家庭電気製品	家具・インテリア	書籍・文具	ホビー・CD・DVD・スポーツ用品	贈答品	合計	ガソリン	ビデオ・CD等
富良野市	85.4	82.8	66.4	29.8	57.7	31.8	42.1	46.2	48.6	30.4	71.0	52.3	71.8	86.9	98.2	62.6	78.6	80.1	
旭川市	3.9	2.7	22.6	57.9	28.2	54.9	46.9	45.3	42.9	57.2	20.2	39.8	17.8	6.8	0.7	26.6	3.8	3.8	
中富良野町	6.3	3.3	3.0	0.7	1.8	0.4	1.0	0.1	1.0	1.0	1.9	0.5	1.8	1.1	0.4	2.6	10.5	9.3	
帯広市	0.0	0.2	0.3	0.3	0.2	0.5	0.6	0.5	0.4	0.7	0.5	0.2		0.2		0.3	0.0		
芽室町	0.1	0.4	0.1	0.4	0.1	0.5	0.4	0.4	0.4	0.5	0.4		0.4			0.3		0.2	
占冠村	0.1	0.4	0.3	0.5	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	1.0	0.1	0.2		0.1	0.0	0.2			
上富良野町	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1		0.1	0.0		0.4	0.0			0.3	0.1	0.1	0.4	0.3	
南富良野町															0.1	0.0		0.1	
通販・宅配(生協等)	3.1	9.5	4.9	3.8	8.6	6.1	3.1	3.6	3.4	5.0	3.0	2.7	6.1	0.0	0.2	4.4	6.2	5.5	
その他	0.7	0.6	2.3	6.6	2.9	5.7	5.6	3.5	2.9	3.8	2.9	4.3	1.6	4.7	0.5	2.9	0.6	0.6	
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

一平成3年一 区域内人口 27,003 人 (単位:%)																			
(%)	生鮮食料品	一般食料品	日用雑貨	医薬品・化粧品	実用衣料	高級衣料	呉服・寝具	服飾品・アクセサリー	靴・カバン	カメラ	時計・メガネ	家庭電気製品	家具・インテリア	書籍・文具	ホビー・CD・DVD・スポーツ用品	贈答品	合計	ガソリン	ビデオ・CD等
富良野市	98.1	97.3	90.9	82.0	82.3	54.7	79.9	58.4	79.6	77.6	75.7	61.0	85.5	76.4	72.5	78.8			
旭川市	0.9	1.0	4.6	2.0	11.0	33.2	8.2	22.9	17.8	12.5	8.6	16.0	9.2	14.3	14.7	11.6			
札幌市			0.4		1.4	5.6	4.0	5.6	1.6	3.7	0.5	1.5	1.0	2.3	1.6	1.9			
通信販売			1.6	7.0	4.3	3.5	2.1	5.5	0.5	0.5		1.4	1.3		0.5	1.8			
その他	1.0	1.7	2.5	9.0	1.1	3.1	5.8	7.6	0.5	5.7	15.2	20.0	3.1	7.0	10.6	5.9			
総計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤中心市街地の空き店舗数の推移

過去の時系列的な推移を示すデータが存在しないために、その詳細について考察は出来ないが、中心市街地には空き店舗のうち店舗併用住宅として使われていた老朽化した建物が多く、こうした建物は小売業廃業後テナントとして賃貸も出来ず、居住専用として利用され（平成19年度8月調査）空き店舗・住宅が48戸、空き住宅は老朽化し相当の改修をしなければ住めない物件や、取り壊しを待機している物件が多く、虫くいのように存在していたが、平成24年に富良野市中小企業振興総合補助金の制度改正により「店舗等新築改修費補助金」「新規出店家賃補助金」等を活用し、新規8店舗、入れ替え1店舗と、空き店舗対策を図ってきた。



その他の減少は、老朽化した建物を解体・取り壊しされ「更地」となって9戸と減少（平成26年4月調査）となっている。

	空き店舗・住宅数
平成19年	48戸
平成25年	9戸

⑥中心市街地の小売店経営者の高齢化と後継者不足

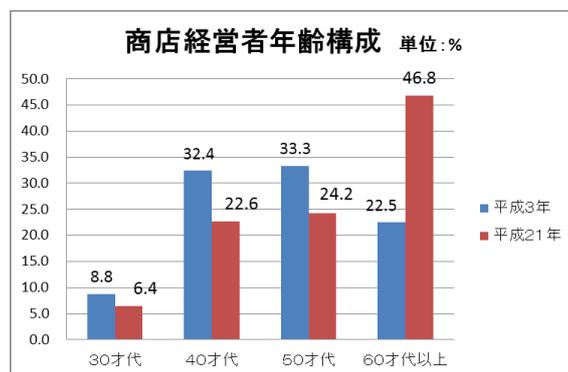
富良野駅前地区土地区画整理事業の従前関係権利者は当初51名であったが、事業完了後は、商業者の高齢化及び後継者不足に加え、繊維産業の流通体系の変化による問屋の廃業などによる小売店の連鎖廃業により、最終的には地区内で営業継続をする権利者は21名となり、約41%の権利者が地区外移転している。

そのため、沿線の相生通商店街は、参加組合員の減少により商店街の活動が維持出来ず、現在、新相生通商店街振興組合での商店街活動を余儀なくされている。

商店街区における商業環境に関するアンケート調査（富良野商工会議所 H21）によると、平成3年と平成21年で比較した場合、40歳代は9.8%、50歳代が9.1%と減少し、60歳代の割合が46.8%と、経営者の高齢化が進んでいる。経営店舗の事業継承については「後継者がいない」「考えてない」「わからない」と回答した経営者は約50%となっている。

◇経営主年齢構成表（単位：%）

	平成3年	平成21年
30歳代	8.8	6.4
40歳代	32.4	22.6
50歳代	33.3	24.2
60歳代以上	22.5	46.8



◇経営店舗の事業継承について

回答	店舗数	%
①子供に継がせたい	17	27.4
②従業員に継がせたい	1	1.6
③兄弟に継がせたい	0	0.0
④継がせない	6	9.7
⑤後継者がいない	6	9.7
⑥考えている	12	19.4
⑦わからない	11	17.7
⑧その他（ ）	4	6.5
NA（不回答）	8	8.1

7) 中心市街地の観光に関する状況

「富良野」といえばそんな印象を誰もが抱く絵画のような美しい農村風景。十勝連峰最南端に位置する富良野岳となだらかな山の多い北海道にあってはヨーロッパ南フランスを思わせる景観を有し、「北海の槍」の別名を持つ夕張山地の北部に位置する最高峰・芦別岳が、つらなり、JR富良野駅から西方をみると、その夕張山地芦別岳の雄大な眺望が出来る。



この2つの頂の間を大河・空知川がとうとうと流れ、東大演習林の樹海がどこまでも続く雄大な景観資源に恵まれた地域である。

JR富良野駅前に近接する相生通商店街は、富良野市街地が進展していく中心として各種小売店が軒をつらね、全国的に有名となった「北海へそ祭り」の会場ともなっており、さらに沿道には分祀された「へそ神社」があり市民に親しまれている。

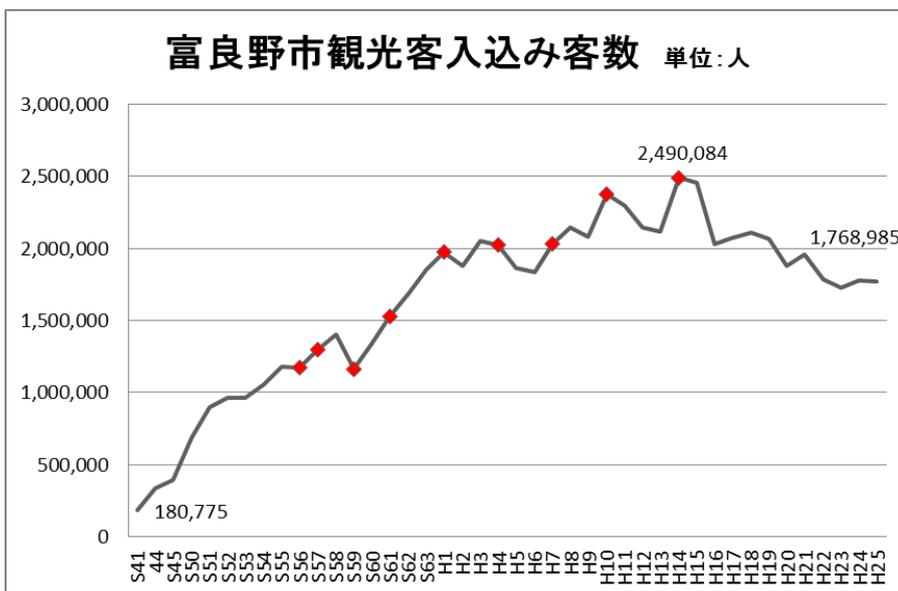
五条商店街が接する市道東5条通は商店街（会）、北海道電力、富良野市による管理協定により電気・通信設備の無柱化と歩車道の段差解消をはかり、さらに冬期間は商店街独自事業によって歩道幅確保のため融雪パネルを設置することにより、通年で歩行者に優しい道づくりを実践し、新規小売店の出店（飲食店）が見られている。

【5条商店街から見る芦別岳】



西方をみると夕張山地芦別岳の雄大な眺望に、明るい商店街として市民に親しまれている。

「北の国から」ブーム以来、年間180万人を超え全国でも有名な一大観光地と発展し続けている富良野市の中心市街地の状況は、観光施設のほとんどが周辺郊外地に配置されていることから「フラノマルシェ」が完成する平成21年度までは中心市街地への流入が少なく「まちなか」の賑わいへの影響はたいへん小さいものとなっていた。



- ◇テレビドラマ「北の国から」放映年次
- S 5 6 「北の国から」連続ドラマ放映
- S 5 7 「北の国から '83冬」
- S 5 9 「北の国から '84夏」
- S 6 2 「北の国から '87初恋」
- H 1 「北の国から '89帰郷」
- H 4 「北の国から '92巣立ち」
- H 7 「北の国から '95秘密」
- H 1 0 「北の国から '98時代」
- H 1 4 「北の国から 2002 遺言」

←※グラフ赤ポイントは放送年

【富良野観光客入込み数推移】

年度	S41	S45	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57
入込み数	180,775	391,390	691,474	895,288	962,323	965,979	1,059,365	1,176,361	1,173,583	1,298,148
年度	S58	S59	S60	S61	S62	S63				
入込み数	1,400,586	1,161,412	1,336,938	1,528,549	1,686,509	1,853,434				
年度	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10
入込み数	1,976,305	1,878,586	2,052,568	2,024,687	1,865,115	1,835,867	1,835,867	2,032,457	2,149,148	2,082,724
年度	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
入込み数	2,376,986	2,294,017	2,143,135	2,118,511	2,490,084	2,455,118	1,835,867	2,070,998	2,107,427	2,067,283
年度	H21	H22	H23	H24	H25					
入込み数	1,881,526	1,960,671	1,782,290	1,724,719	1,768,985					

(資料 富良野市経済部商工観光課)



資料 平成 7 年 「北の国から」資料館 期間限定オープン
 平成 10 年 富良野駅横観光インフォメーションオープン
 平成 15 年 「北の国から」資料館、通年開館

近年、富良野市の観光客の入込み数は、テレビドラマ「北の国から」放映の影響が年々薄まり、平成 15 年をピークに減少傾向になっているが、誰もが抱く絵画のような美しい農村風景と、青空にはえる淡い浅紫色のラベンダーをメインとした「花観光と自然景観」により、年間約 180 万人が訪れる、北海道の代表的な観光地として推移している。



■ 観光施設立地状況図

＜広域観光マップ＞



＜富良野市内主要観光施設立地状況図＞



◇市内観光施設利用客数（平成25年度）

単位：人

	施設名	平成18年度 利用者数(人)	平成25年度 利用者数(人)
中心市街地	「北の国から資料館」	68,062	24,641
	広域観光インフォメーション	80,315	54,113
	フラノマルシェ		794,951
郊外地	富良野チーズ工房	306,580	158,509
	ふらのワインハウス	55,689	35,324
	ハイランドふらの	192,189	91,881
	果汁工場	17,186	10,830
	五郎の石の家	229,689	123,880
	拾って来た家	284,915	77,546
	ニングルテラス	319,128	132,020
	風のガーデン		126,853
中富良野町	ファーム富田	1,121,600	825,200

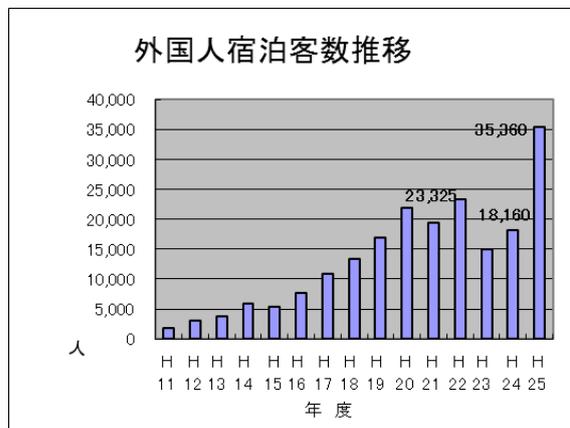
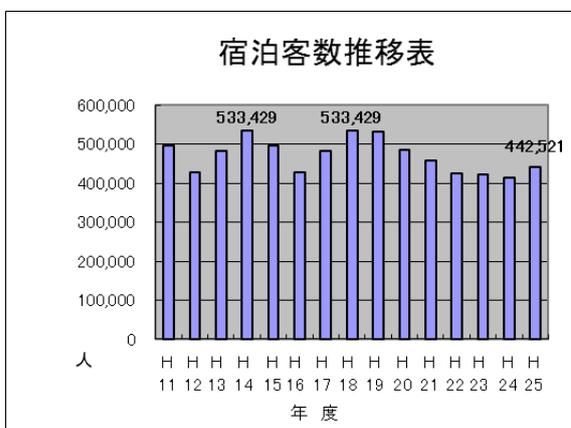
「ふらの観光協会資料より」

市内の観光施設の状況を、平成18年と平成25年で比較すると、各観光施設の観光客入込み数は、約33%から73%の落ち込みとなっており、フラノマルシェの約75万人の集客は、富良野観光180万人を維持している大きな原動力になっている。

近年は、インターネットを利用し航空チケットや宿泊施設の手配を行い、自分に合った旅行日程を計画される人が増加してきている。

さらに、航空会社は航空チケット、レンタカー、宿泊施設をパッケージでの販売も行っているため、気軽にレンタカーによる来客が増加し、北海道をくまなく回遊する傾向にあり、平成24年の宿泊数は、平成18年と比較すると22%減少し、通過型観光傾向になりつつあると考えられているが、平成25年は外国人宿泊客が平成24年に比べ1.95倍の35,360人増加し、全体の宿泊客数を増加させている。

近年、近郊都市からのアクセス（道路網整備）改善による影響もあり、平成22年のフラノマルシェへの観光客アンケート調査では、60%以上の方が「日帰り」と回答している。



◇富良野市の観光消費とその効果

平成18年度		平成22年度	
総人口 (平成12年度)	26,112 人	総人口 (平成24年度)	23,681 人
事業所従事者 (平成13年度)	12,567 人	事業所従事者 (平成18年度)	11,243 人
小売業年間商品販売額 (平成14年度)	41,389 百万円	小売業年間商品販売額 (平成19年度)	34,426 百万円
日帰り客入込み数 a (平成17年度)	1,590 千人	日帰り客入込み数 a (平成24年度)	1,365 千人
宿泊客入込み数 b (平成17年度)	481 千人	宿泊客入込み数 b (平成24年度)	414 千人
観光客入込み数 a+b (平成17年度)	2,071 千人	観光客入込み数 a+b (平成24年度)	1,780 千人
		日帰り観光客消費単価 c (平成22年度)	7,246 円/人
		宿泊観光客消費単価 d (平成22年度)	27,014 円/人
観光関連産業総売上高 (平成18年度)	301 億円	観光客消費総額 e (平成22年度)	211 億円
市内で生じる総売上高 (平成18年度)	569 億円	市内で生じる総売上高 f=e×g (平成22年度)	399 億円
乗数効果 g	1.89 倍	乗数効果 g	1.89 倍
観光経済効果に相当する 就業者 (平成18年度)	3,231 人	観光経済効果に相当する 就業者 (平成22年度)	2,277 人
観光経済効果に相当する市内 常住就業者 (平成18年度)	2,673 人	観光経済効果に相当する市内 常住就業者 (平成22年度)	1,822 人

資料:第5回北海道観光産業経済効果調査報告書

(平成23年3月北海道観光産業経済効果調査委員会)

*18年は平成18年度「富良野市観光経済調査報告書」より

$$e=c \times a + d \times b$$

abcdは第5回北海道観光産業経済効果調査報告書より

gは平成18年度「富良野市観光経済調査報告書」より

下記の通り設定すると

399億円に対して

平成18年度の数値

企業の対売上人件費比率	0.2	80 億円	0.251
富良野市内就業者1人当たり年間所得(万円/人)	350	2,277 人	319
富良野市内分の人件費比率	0.8	1,822 人	0.833 0.817

・平成22年度の乗数効果の数値は平成18年度のものを用いている。

・平成18年度の観光による市内従業者数は2,673人と事業所従業者数12,567人のうちの20%以上を占めており、概算による平成22年度の市内従業者数は1,822人と同11,243人の約16%を占める結果になっている。

8) 公共交通等移動手段に関する状況

①乗合バス路線の系統及び区間便数

富良野市全体の乗合バスは、平成24年現在、5系統あり、協会病院・JR富良野駅を起点とし、それぞれ単線として1日に全体で18便運行されている。

これらのバスは郊外山部・東山市街地や西達布・麓郷等（老節布線は平成21年10月より廃止）農村部居住者にとっての日常生活の移動手段として利用されている。



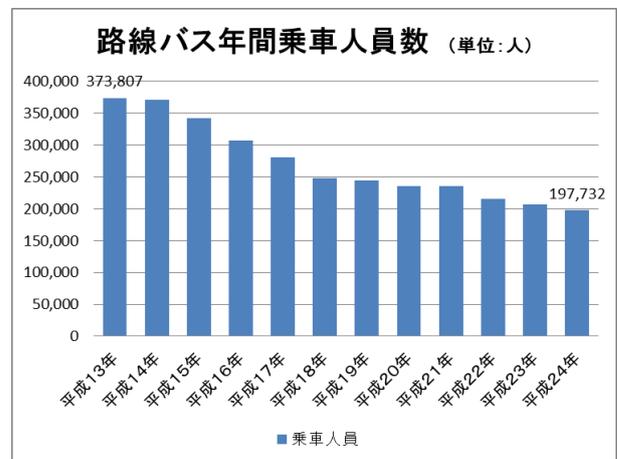
②乗合バスの平均乗車人数

富良野市はもちろん、北海道での日常生活の移動手段は完全に車が主流となっており、乗合バスの乗車人員は減少傾向にある。平成13年度に対し平成24年度の年間、1日当たり乗車人員は1,024人から542人へと52.9%減と半減している。平成15年度から平成22年度の平均乗車効率は13%前後で推移している。

【路線バス乗車人員】

年度	乗車人員			備考
	年間人員	1日当たり人員	平均乗車効率(%)	
平成13年	373,807	1,024	—	
平成14年	370,256	1,014	—	
平成15年	341,690	936	10.58	
平成16年	306,543	840	11.60	
平成17年	280,395	768	14.08	
平成18年	248,237	680	14.19	
平成19年	243,889	668	13.80	
平成20年	236,018	647	13.19	
平成21年	235,078	644	13.43	
平成22年	215,854	591	13.21	※老節布線廃止
平成23年	206,898	567	12.60	
平成24年	197,732	542	13.01	

(資料: 富のバス(株))



9) 富良野市民ニーズ調査

中心市街地活性化基本計画を策定する上で、市民に中心市街地についての利用実態およびニーズを把握し、今後の活性化・まちづくりのあり方について意識調査することによって、市民からみた中心市街地のあり方、方向性について検討する基礎調査資料とするため、アンケートを実施した。

目的

富良野市では「地域の魅力ある産業を活かしたまちづくり」を目標に、商工業の振興とまちなかに賑わいを目指したまちづくりを行うために、「富良野市中心市街地活性化基本計画」を策定し、国の認可を平成20年11月に受けた上で、中心市街地である77haの活性化に向けた各種活性化事業を実施してまいりました。

このアンケート調査は、基本計画期間が平成26年3月までとなっていることから、中心市街地に対する市民の利用度や評価、活性化事業に関する市民の認知度、市民が今後、中心市街地に求めるものなどを把握することを目的とします。

1. 調査対象者

平成26年1月1日現在の、住民基本台帳に登録されている18歳以上の市民を、無作為に約千人を抽出

2. 調査期間等

アンケート発送日	平成26年1月31日(金)
アンケート締切日	平成26年2月28日(金)

3. 回収率

送付総数	1,008通
あて先不明等返却	10通
有効送付数	998通
回収数	431通
回収率	43.19%

4. 調査

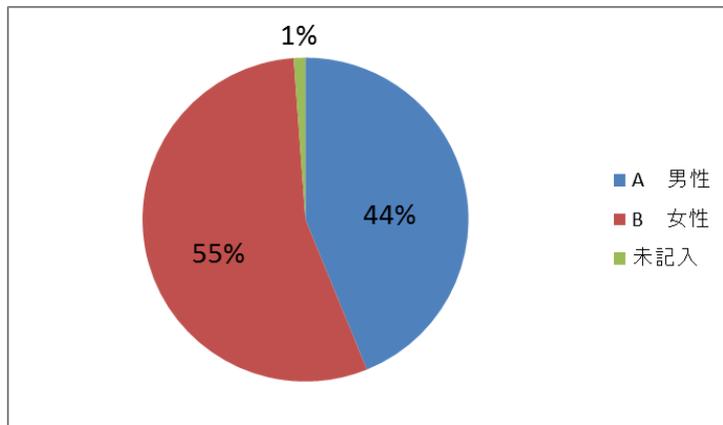
性別、年齢に関する質問

性別 A 男性 B 女性
 年齢 A 10歳代 B 20歳代 C 30歳代 D 40歳代
 E 50歳代 F 60歳代 G 70歳代以上

アンケート結果

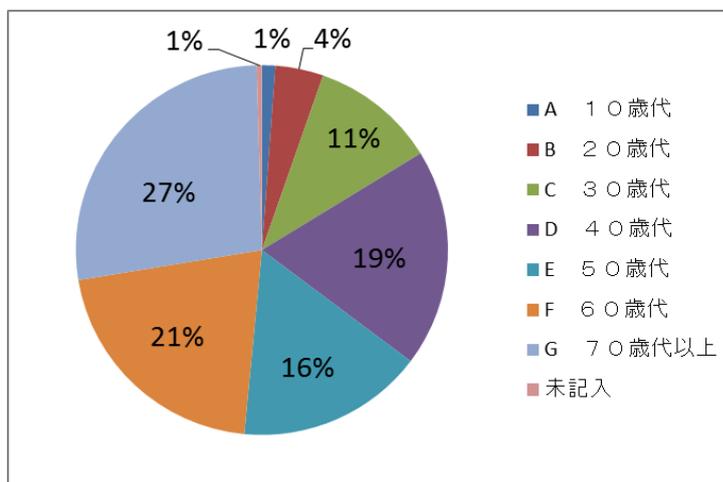
性別

A 男性	189	44%
B 女性	237	55%
未記入	5	1%
計	431	100%



年齢

A 10歳代	5	1%
B 20歳代	18	4%
C 30歳代	47	11%
D 40歳代	82	19%
E 50歳代	70	16%
F 60歳代	90	21%
G 70歳代以上	117	27%
未記入	2	1%
計	431	100%



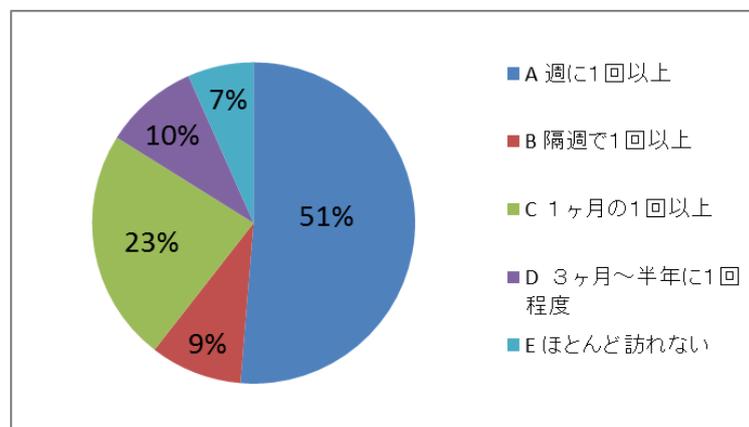
(1) 中心市街地の利用状況

1) 中心市街地内商店街へ訪れる頻度 (どれか一つを選択)

A 週に1回以上 B 隔週で1回以上 C 1ヶ月の1回以上
 D 3ヶ月～半年に1回程度
 E ほとんど訪れない

アンケート結果

A 週に1回以上	217	51%
B 隔週で1回以上	39	9%
C 1ヶ月の1回以上	99	23%
D 3ヶ月～半年に1回程度	40	10%
E ほとんど訪れない	28	7%

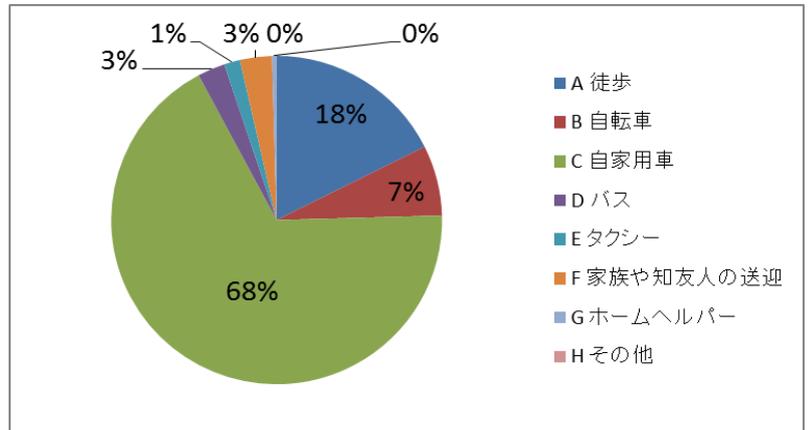


2) 中心市街地内商店街へ訪れる手段（どれか一つを選択）

- A 徒歩 B 自転車 C 自家用車 D バス E タクシー
 F 家族や知友人の送迎 G ホームヘルパー
 H その他

アンケート結果

A 徒歩	79	18%
B 自転車	31	7%
C 自家用車	303	68%
D バス	12	3%
E タクシー	7	1%
F 家族や知友人の送迎	14	3%
G ホームヘルパー	2	0%
H その他	0	0%

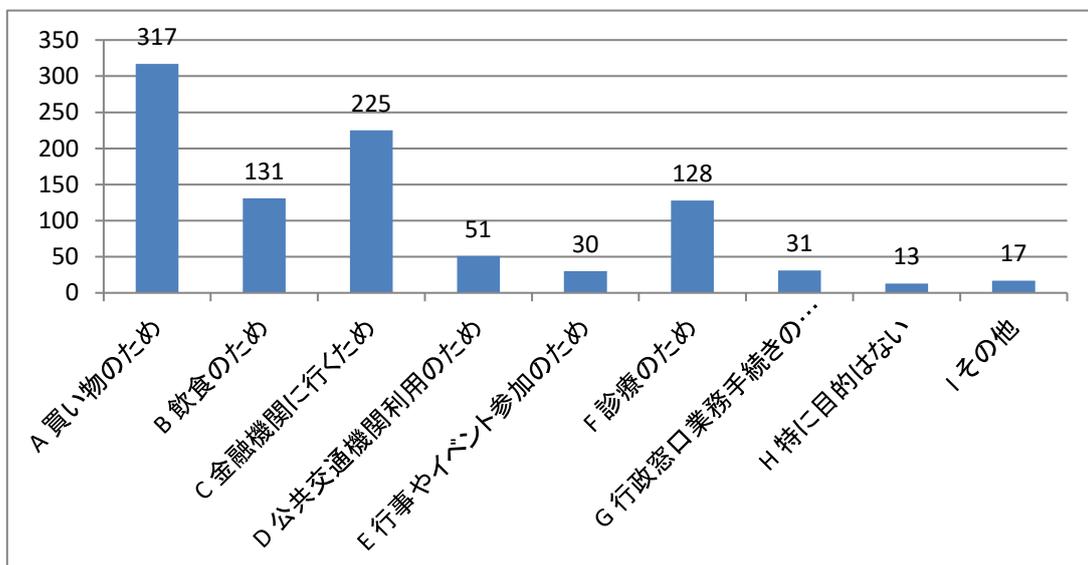


3) 中心市街地内商店街へ訪れる目的（複数選択可）

- A 買い物のため B 飲食のため C 金融機関に行くため
 D JR、都市間高速バスなど交通機関利用のため
 E 行事やイベント参加のため F 診療のため G 行政の窓口業務手続きのため
 H 特に目的はない I その他

アンケート結果

A 買い物のため	317
B 飲食のため	131
C 金融機関に行くため	225
D 公共交通機関利用のため	51
E 行事やイベント参加のため	30
F 診療のため	128
G 行政窓口業務手続きのため	31
H 特に目的はない	13
I その他	17

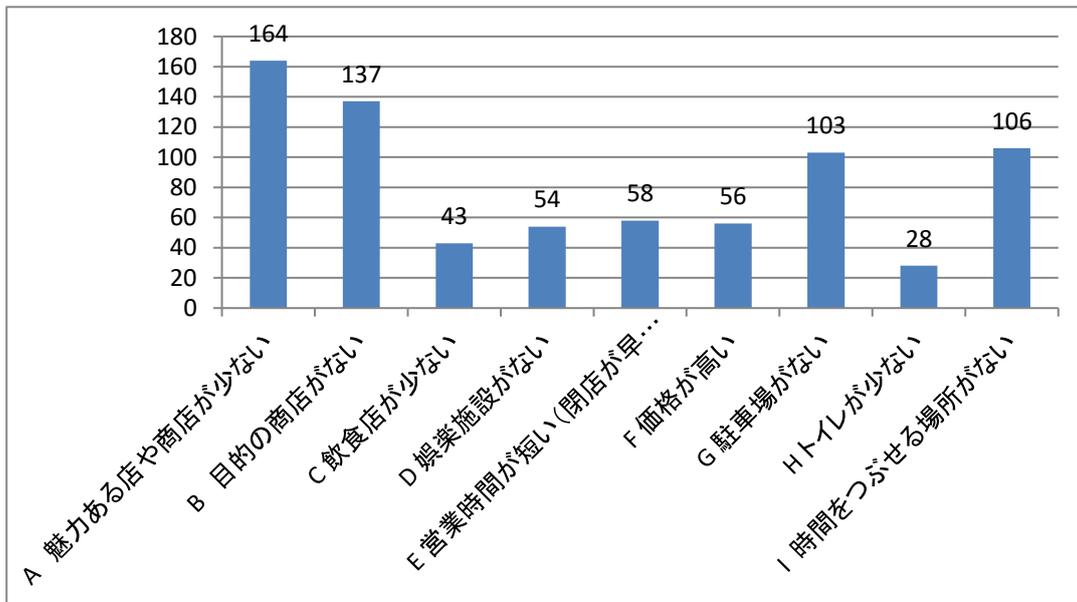


4) 中心市街地内商店街にあまり訪れない理由（複数選択可）

- A 魅力ある店や商店が少ない B 目的の商店がない
 C 飲食店が少ない D 娯楽施設がない
 E 営業時間が短い（閉店が早い） F 価格が高い G 駐車場がない
 H トイレが少ない I 待ち合わせや自由に時間をつぶせる場所がない

アンケート結果

A 魅力ある店や商店が少ない	164
B 目的の商店がない	137
C 飲食店が少ない	43
D 娯楽施設がない	54
E 営業時間が短い（閉店が早い）	58
F 価格が高い	56
G 駐車場がない	103
H トイレが少ない	28
I 時間をつぶせる場所がない	106



(2) これまで行ってきた活性化事業（1期）の認知度

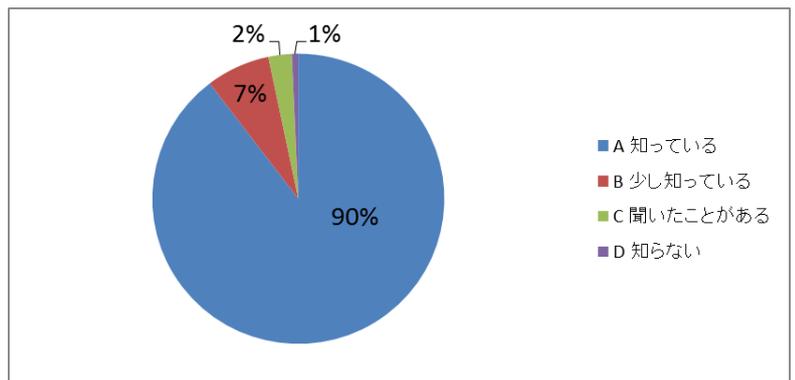
1) 1期計画による実施事業の認知度（どれか一つを選択）

「フラノマルシェ」

- A 知っている B 少し知っている C 聞いたことがある
 D 知らない

アンケート結果

A 知っている	380	90%
B 少し知っている	30	7%
C 聞いたことがある	11	2%
D 知らない	3	1%

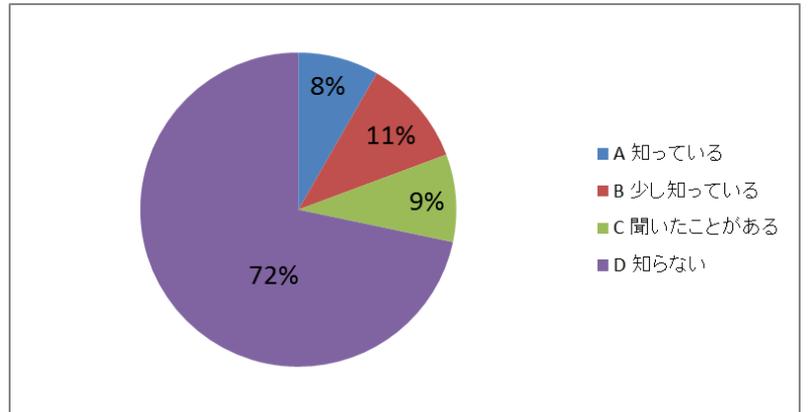


「ギャラリーロード」

- A 知っている B 少し知っている C 聞いたことがある
D 知らない

アンケート結果

A 知っている	33	8%
B 少し知っている	44	11%
C 聞いたことがある	36	9%
D 知らない	286	72%

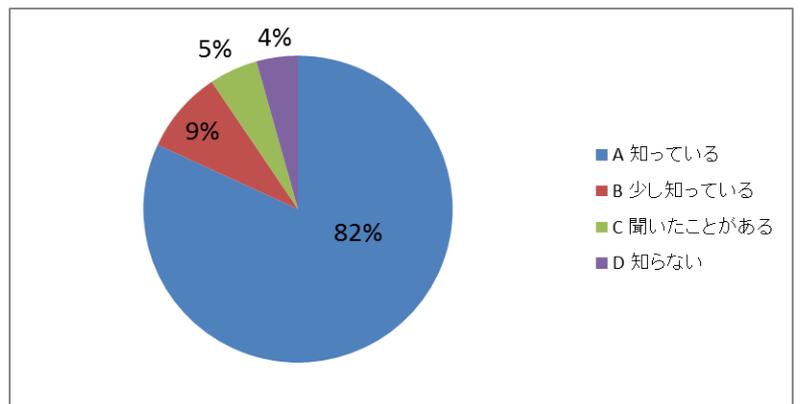


「ポイントカード事業」

- A 知っている B 少し知っている C 聞いたことがある
D 知らない

アンケート結果

A 知っている	339	82%
B 少し知っている	36	9%
C 聞いたことがある	21	5%
D 知らない	18	4%



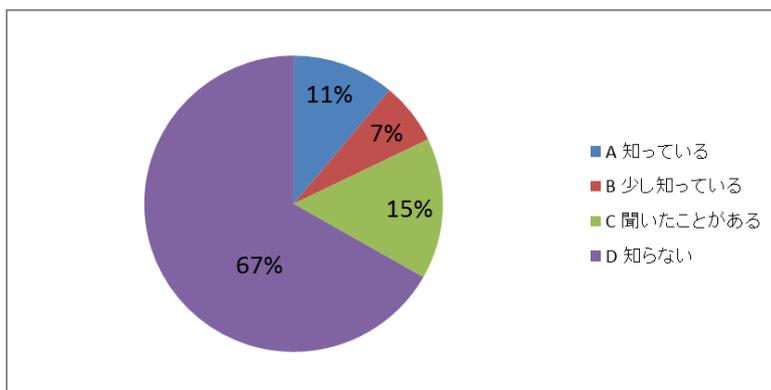
2) 1期計画で実施中、未実施事業の認知度（どれか一つを選択）

「ネーブルタウン」

・知っている ・少し知っている ・聞いたことがある ・知らない

アンケート結果

A 知っている	46	11%
B 少し知っている	28	7%
C 聞いたことがある	64	15%
D 知らない	277	67%

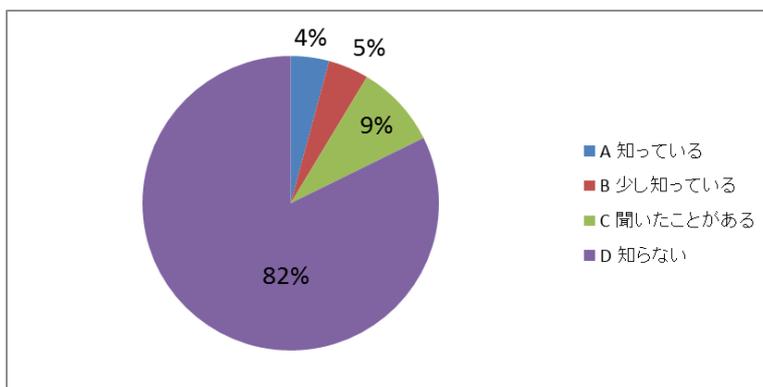


「サンライズパーク」

・知っている ・少し知っている ・聞いたことがある ・知らない

アンケート結果

A 知っている	17	4%
B 少し知っている	18	5%
C 聞いたことがある	37	9%
D 知らない	335	82%



3) 中心市街地の各種活性化事業への取り組みについて（どれか一つを選択）

具体例：①フラノマルシェなど施設整備事業 5事業

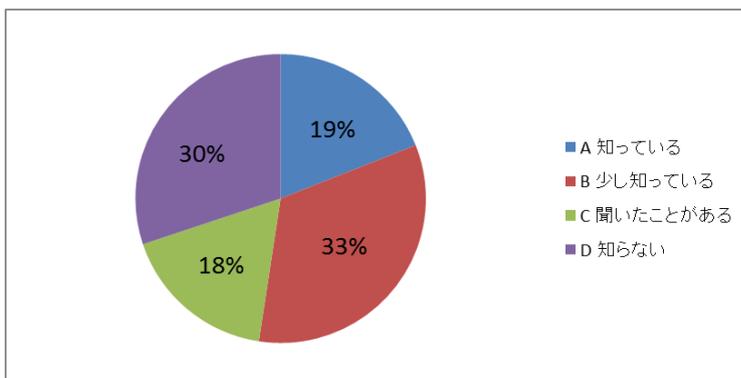
道路整備事業 2事業

②中心市街地のにぎわい創出事業などソフト事業 25事業

A 知っている B 少し知っている C 聞いたことがある D 知らない

アンケート結果

A 知っている	75	19%
B 少し知っている	132	33%
C 聞いたことがある	69	18%
D 知らない	119	30%

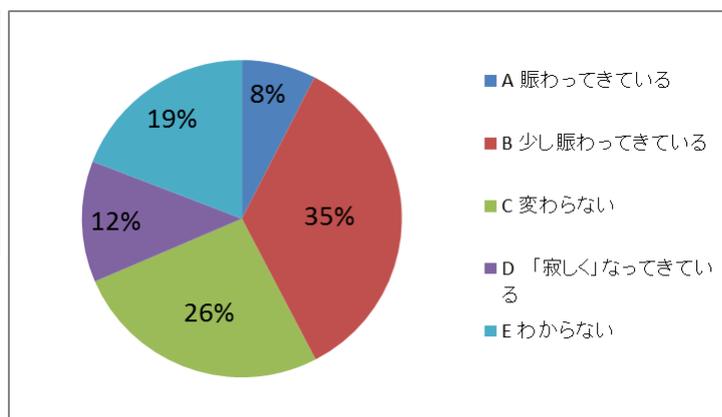


4) 中心市街地の各種活性化事業への取り組み結果、中心市街地内は（どれか一つを選択）

- A 賑わってきている B 少し賑わってきている C 変わらない
D 「寂しく」なってきた E わからない

アンケート結果

A 賑わってきている	31	8%
B 少し賑わってきている	144	35%
C 変わらない	108	26%
D 「寂しく」なってきた	51	12%
E わからない	79	19%

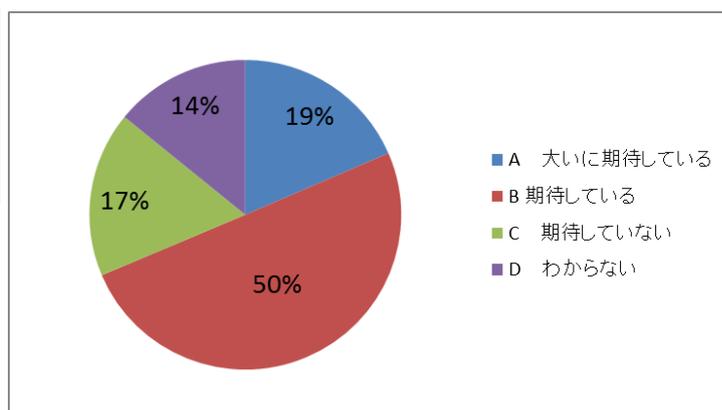


5) 本市の行政と民間による中心街活性化事業の取り組みについては全国的にも注目されているが（どれか一つを選択）

- A 大いに期待している B 期待している C 期待していない
D わからない

アンケート結果

A 大いに期待している	76	19%
B 期待している	206	50%
C 期待していない	71	17%
D わからない	58	14%

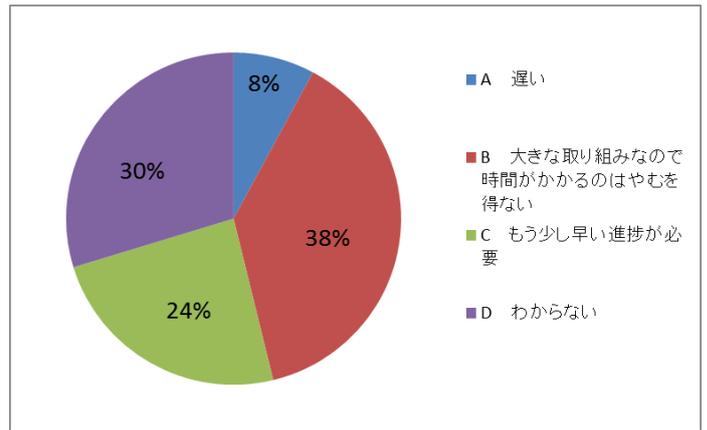


6) 中心市街地の各種活性化事業への取り組みの進捗状況について（どれか一つを選択）

- A 遅い
B 大きな取り組みなので時間がかかるのはやむを得ない
C もう少し早い進捗が必要 D わからない

アンケート結果

A 遅い	32	8%
B 大きな取り組みなので時間がかかるのはやむを得ない	156	38%
C もう少し早い進捗が必要	98	24%
D わからない	121	30%

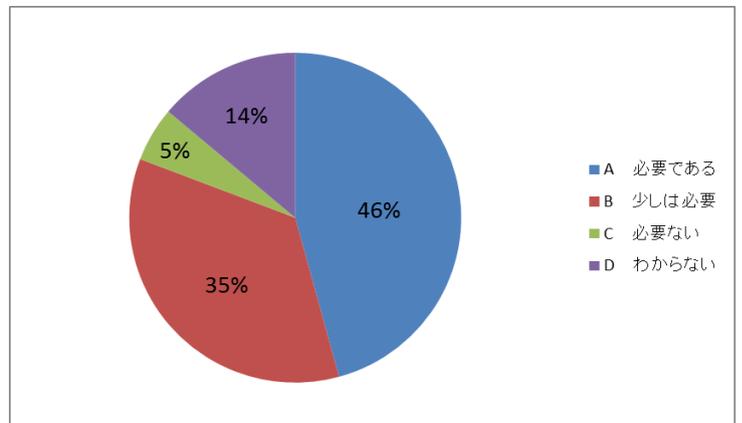


7) 中心市街地活性化への施策は必要か (どれか一つを選択)

A 必要である B 少しは必要 C 必要ない D わからない

アンケート結果

A 必要である	188	46%
B 少しは必要	144	35%
C 必要ない	22	5%
D わからない	57	14%

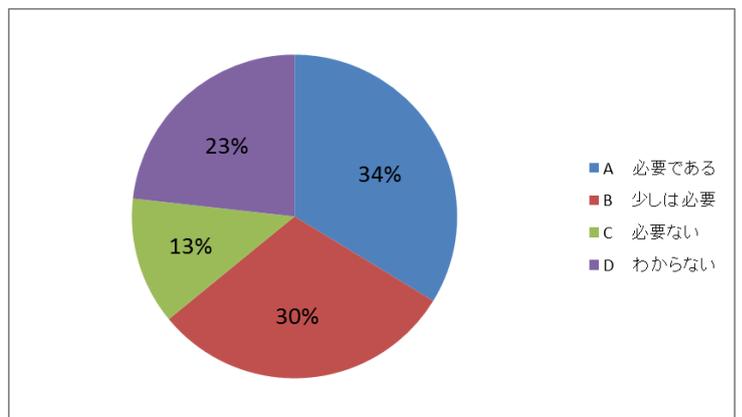


8) 本市の(1期計画)各種活性化事業が平成26年に計画期間終了となるが継続して2期計画を策定し取り組むことが必要か (どれか一つを選択)

A 必要である B 少しは必要 C 必要ない D わからない

アンケート結果

A 必要である	138	34%
B 少しは必要	124	30%
C 必要ない	52	13%
D わからない	95	23%

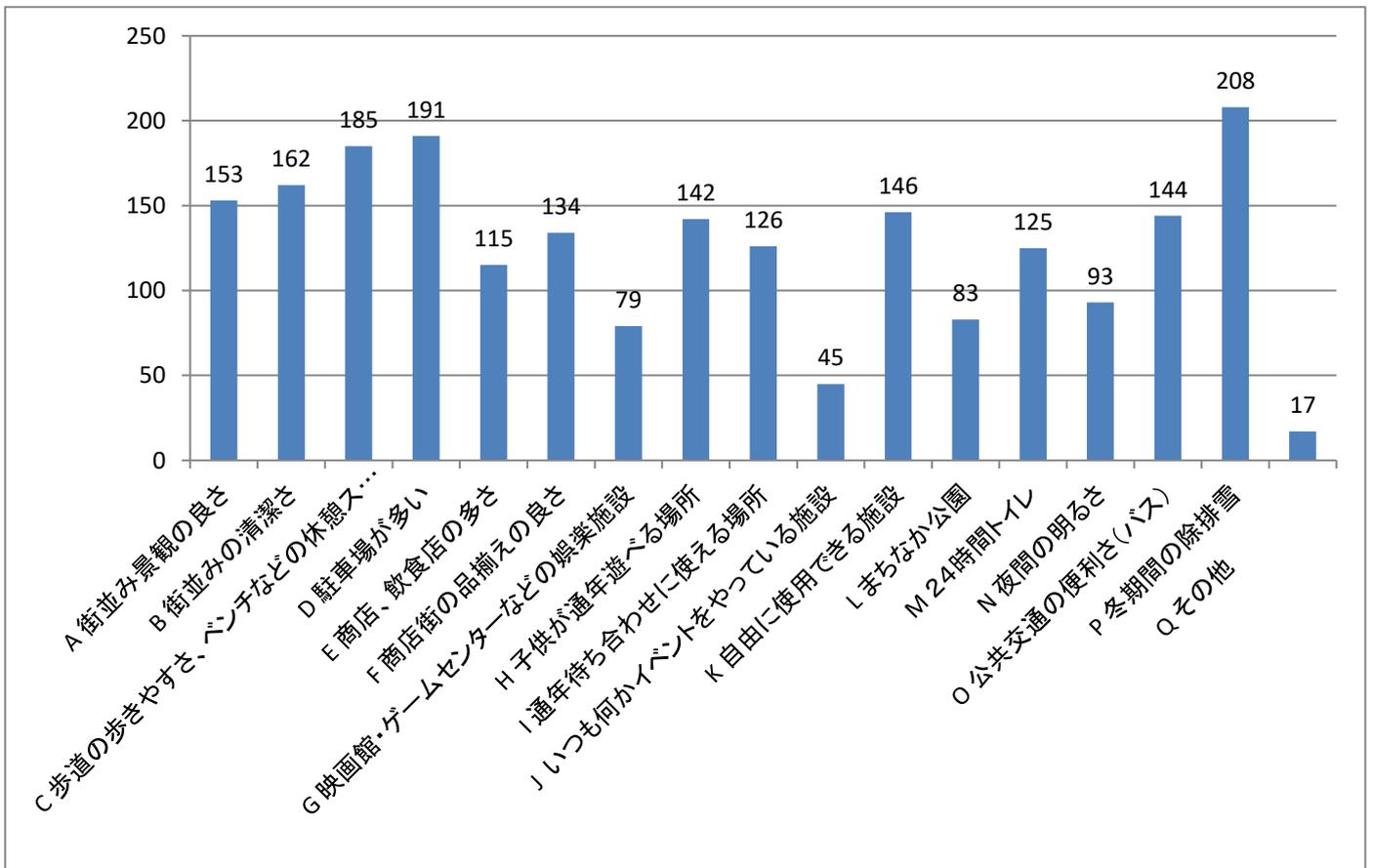


(3) 中心市街地の活性化のために必要と思われること

1) 「訪れたい」「長く時間を過ごしたい」と思う場所にするために必要なこと (複数選択可)

アンケート結果

A 街並み景観の良さ	153
B 街並みの清潔さ	162
C 歩道の歩きやすさ、ベンチなどの休憩スペース	185
D 駐車場が多い	191
E 商店、飲食店の多さ	115
F 商店街の品揃えの良さ	134
G 映画館・ゲームセンターなどの娯楽施設	79
H 子供が通年遊べる場所	142
I 通年待ち合わせに使える場所	126
J いつも何かイベントをやっている施設	45
K 自由に使用できる施設	146
L まちなか公園	83
M 24時間トイレ	125
N 夜間の明るさ	93
O 公共交通の便利さ (バス)	144
P 冬期間の除排雪	208
Q その他	17



2) 中心市街地に「住みたい」「長く住み続けたい」と思う場所にするために必要なこと
(複数選択可)

アンケート結果

A 住民（コミュニティ）同士のつながり	133
B 防犯、安全性が確保されている	214
C 夜間の明るさ	115
D 買い物が便利	254
E 魅力ある商店街、飲食店	171
F 医療・福祉施設（高齢者サービスや保育所等）の充実	247
G 行政の窓口業務の利便性	82
H 子どもの遊び場、四季を通じて市民が集えるパブリックスペース	135
I 手ごろな家賃で、駐車場のある賃貸住宅	161
J 公共交通（バス）の利便性	133
K 冬期間の除排雪	218
L 美しい街並み景観	118
N その他	11

